

Martyn van Hoek Memorial Concert

マルティン・ファン・デン・フック メモリアルコンサート

Rotterdam ~ Tokyo ~ Wien



Stefan Gartmayer

出演者

チェロ: シュテファン・ガルトマイヤー

(ウィーンフィルハーモニー管弦楽団団員)

ピアノ: ファン・デン・フック 登美子 / 高取 達也

曲 目

F. シューベルト / ロンド イ長調 D.951 (4手連弾)

B. ジフテンホルスト・メイヤー / <富士六景> より

F. リスト / <巡礼の年 第2年 イタリア> より

～ダンテを読んで～ソナタ風幻想曲～

鈴木 純明 / Les fleurs musicales pour violoncelle et piano

(本公演追悼委嘱作品)

L. ヤナーチェク / おとぎ話

R. シューマン / 幻想小曲集 Op.73

都合により、プログラム曲の一部が変更になる場合がございます。

ご了承ください。



Van Den Hoek Tomiko

Tatsuya Takatori

2025年

10.23

梅窓院・祖師堂 18:30開演 (18:00開場)

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

東京メトロ銀座線 外苑前駅 (1a 出口) より徒歩1分

一般 / 5,000円 学生 / 2,500円

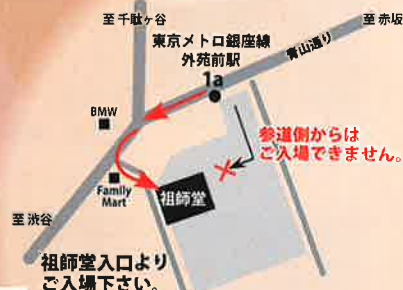
当日券は共に500円増し



チケットご注文
お問い合わせ

(担当: 鈴木) ☎090-2921-4806

suzuken_concert@yahoo.co.jp <https://www.suzukenconcert.jp/>



※駐車場はございません。
※東京メトロ銀座線 外苑前駅 (1a 出口) より徒歩1分

こちらのQRコードから
ご予約できます。



Kingdom of the Netherlands

主催: M. ファン・デン・フックメモリアルコンサートグループ 協賛: 梅窓院 後援: オランダ王国大使館

オランダを代表するピアニストの一人マルティン・ファン・デン・フックは、1986年にリスト国際コンクール優勝以来、世界各国で演奏活動を行いました。日本には1988年に初来日し、毎年国内各地で演奏、東日本大震災被災地支援として宮城県と岩手県の小・中学校、寺院において慰問演奏を行い、＜人と人、心と心＞を胸に、日本とオランダの音楽を通じた交流に力を尽くしました。今回のコンサートは、故人が度々演奏した南青山の梅窓院で、オランダ、日本、そして半生を過ごしたオーストリアに思いをはせ、出会いに感謝し、ご来場の皆様とともに偲びます。



マルティン・ファン・デン・フック (1954-2022)

オランダ・ロッテルダム生まれ。ロシアとハンガリーで学んだ後、アメリカでリストの孫弟子J.ライエフに師事するなど研鑽を積み1986年リスト国際コンクールで優勝。演奏は「完全なテクニックと力強さ」と評価は高く、ユニークな人柄とウィットに富んだステージは世界各地で好評を得、聴衆の心を強く捉える。オランダ・リスト協会〈クリング〉会長。ウィーン国立音楽大学ならびにウィーン私立音楽大学教授、オランダのユトレヒト芸術大学教授を歴任。オーストリア、ドイツ、メキシコにて音楽祭ミュージックセントラルを主催、同時に講習会も開催し後進の育成に情熱を注ぐ。2018年に病気により演奏活動を中断、その後奇跡のカムバックを経るも、2022年8月にコロナ感染のため逝去。



シュテファン・ガルトマイヤー

ウィーン生まれ。ウィーン、アーヘン、フライブルク、ブレシアでチェロと作曲を学ぶ。チェロをH・ファイエル、T・キューネ、H.C.シュヴァイカー、M・ブルネツコ各氏に師事。1999年～2000年までウィーン放送交響楽団 (RSO) のソロチェリスト、2001年にフランクフルト放送交響楽団 (hr) のソロチェリスト、2002年～2007年までライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の副首席奏者。2007年よりウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団、2010年よりウィーンフィルハーモニー管弦楽団員となる。ソリストとしてリンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、ソンバーテリ室内管弦楽団と共演し、I・プレイエルのチェロ協奏曲第1番 (2017年) を録音。ヨーロッパ、アジア、北米、南米で室内楽やソロ演奏を行う。E・シャガールとのPhiliTango (2009～2017年)、キュッヒル・カルテット (2020～2024年)、ウィーン・リング・アンサンブル (2020年～) など、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の様々なアンサンブルのメンバーとして活躍。PMFフェスティバル札幌、グーテンシュタイン・マスタークラス、WPHアカデミー講師。



ファン・デン・フック・登美子

武蔵野音楽大学卒業、ドイツ・カールスルーエ国立音楽大学大学院修了。留学中は国際ロータリー財団親善奨学金、岡田文化財団奨学金を取得。マリア・カナルスコンクールにてディプロム賞、ポリオ撲滅チャリティー活動に対し国際ロータリー財団よりポール・ハリス賞を授与される。伊藤ふみ子、鶴田和子、フランツ・マシガー、ウォルフガング・マンツ各氏に師事。2001年よりウィーンに在住し、ヨーロッパを中心に演奏活動を行う。ソリストとしてドナウフィルハーモニー、モルフィング管弦楽団と共演。ウィーンフィルハーモニー管弦楽団、RSOウィーン放送交響楽団、トーン・キュンストラ、ブラティスラヴァ室内管弦楽団各楽団メンバーと共演。オーストリア、ドイツ、メキシコで開催の音楽祭《ミュージックセントラル》やオーストリア・グーテンシュタイン・マスタークラスにて世界各地から参加の青少年の指導にあたる。夫マルティン・ファン・デン・フックとは4手連弾でオーストリア、オランダ、スペイン、ギリシャ、インドネシアなどで活動。



高取 達也

昭和音楽大学を経て同大学院修士課程を首席修了、学長賞受賞。オーストリア、バート・アウスゼーにてミュージックセントラルピアノ講習会修了。第11回ベルティカローリ教授賞ピアノコンクール優秀賞、ローマにてリサイタルを開催。第17回昭和音楽大学コンチェルト定期演奏会にてテアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラと共演。2022年初のリサイタルを開催し好評を博す。首都圏を中心に演奏活動を展開する傍ら、音楽療法等福祉の現場での活動や、オイリュトミークラスでの演奏も担当している。男声合唱団東京リーダーターフェル1925専属ピアニスト。これまでに金子勝子、故種田直之、松岡淳、故M・ファン・デン・フックの各氏に師事。昭和音楽大学附属音楽教室、山野楽器音楽教室、音楽教室アンサンブル各講師



鈴木純明

2000年、東京藝術大学大学院修士課程作曲専攻修了。1997年から2002年、パリ国立高等音楽院作曲科で学ぶ。1999年から2001年には文化庁派遣芸術家在外研修員として研鑽を積む。2003年、フランス国立音響音楽研究所 (IRCAM) の研修課程を修了。管弦楽のための《ラ・ロマネスカ II—ペトルッチの遍歴》により、第24回芥川作曲賞 (2013年) を受賞。これまでにアンリ・セルマー・パリ、東京混声合唱団、モンテカルロ春の芸術祭、Music From Japan、全音楽譜出版社、サントリー芸術財団、NHK交響楽団、神奈川芸術文化財団、静岡市文化振興財団などからの委嘱を受け、新作を発表している。2021年には、現代日本の作曲家シリーズ第56集「鈴木純明 ラ・ロマネスカ」(「レコード芸術」特選盤) をフォンテックよりリリース。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学講師。